

会議録

会議の名称	平成24年度 第2回環境審議会
開催日時	平成24年8月7日（火曜日） 9時30分から11時45分まで
開催場所	エコプラザ西東京 講座室1
出席者	委員：加納委員、勝村委員、井野委員、田辺委員、宮加谷委員、渡部委員、伊藤委員、齋藤委員、清水委員、二宮委員 事務局：金谷みどり環境部長、清水環境保全課長、田中環境計画係長、梶本主任 傍聴人：1名
議題	1 開会 2 議事 （1）第1回環境審議会会議録の確認について （2）基本計画策定に係る基本方針の検討について （3）市民意識調査の設問及び選択肢について （4）その他の市民参加手法について （5）その他 3 閉会
会議資料の名称	資料1 新たな西東京市環境基本計画策定の基本的な考え方（案） 資料2-1 環境に関する市民意向の確認について 資料2-2 環境に関するアンケート調査概要
記録方法	<input type="checkbox"/> 全文記録 <input checked="" type="checkbox"/> 発言者の発言内容ごとの要点記録 <input checked="" type="checkbox"/> 会議内容の要点記録
会議内容	
<p>1 開会</p> <p>2 議事</p> <p>（1）第1回環境審議会会議録の確認について</p> <p>○会長：</p> <p>より分かりやすい表現にするため、4ページ13行目、私の発言を「環境に関する基本計画の策定であるため、単年度の予算に縛られずに5年後10年後を見据えて提言すればよいのではないか。」に修正してほしい。</p> <p>一同了承</p> <p>○事務局：</p> <p>そのように修正する。</p> <p>（2）基本計画策定に係る基本方針の検討について</p>	

事務局より資料1の説明。

○会長：

議事の順序であるが、「(2) 基本計画策定に係る基本方針の検討について」の後に、それに関連する「(4) その他の市民参加手法について」を議論し、最後に「(3) 市民意識調査の設問及び選択肢について」を検討する。

渡部委員

「着眼点1：新しい局面」について、西東京市の固有の問題を記載すべきではないか。道路の問題、東大農場の問題、日の出町二ツ塚処分場の残余年数の問題等の具体例を挙げるべきである。

○事務局：

道路建設については東京都の計画であるが、道路建設に関わる環境問題については注視している。日の出町二ツ塚処分場については、現在、焼却灰でエコセメントを製造しているため、埋め立てを行っていない。

○田辺委員：

着眼点1について、東日本大震災以後、市民の関心は直下型地震と気候変動による都市型水害ではないか。

○会長：

防災に焦点を絞った議論は別の場で行っているのか。

○事務局：

防災に関しては「西東京市地域防災計画」で検討している。気候変動に関しては、本計画の将来像を検討する際に、視点として入れることが必要と考えている。

○井野委員：

近隣の市と共通の環境に関する方針があるとよいのではないか。

○事務局：

環境問題については、単独の自治体ではできないことがある。

○会長：

他の自治体との連携は重要と考えられるが、一方で我々だけでは決められないこともある。

齋藤委員：

環境基本計画以外の市の環境に関する計画との関連についてまとめた資料が必要である。

○事務局：

市の他計画との関連が分かる資料を作成する。

齋藤委員：

「西東京市地球温暖化対策地域推進計画」のように、定量化目標は数値を分かり易く示してください。

環境保全推進協議会はいつ頃開催予定なのか。

○事務局：

現時点では具体的には決まっていない。

○田辺委員：

いつ頃を予定しているのか。

○事務局：

平成25年度末ぐらいに新たな組織に向けての市民会議（環境保全推進会議）を開催し、平成26年度には正式に環境保全推進協議会を設置したいと考えている。

○会長：

市民会議（環境保全推進会議）が、新しい環境計画策定後に環境保全推進協議会として再設置されるという理解でよいか。

○事務局：

その通りである。

○伊藤委員：

環境保全推進協議会は、昨年度の環境審議会で決めた取組を具体化する場となるのか、それとも、新たな環境基本計画で示した施策を実現していく場となるのか。

○事務局：

環境保全推進協議会は、新たな環境基本計画と「西東京市地球温暖化対策地域推進計画」の推進組織となる。

環境審議会は、市全体の基本的な方針を決める場である。

○渡部委員：

本市では「農」の問題が大きいと考えられる。「農」に関する市民の意見をくみ取る場はあるのか。

○事務局：

市民アンケート調査や市民意見交換会での様々な意見を集約し、環境審議会に報告する予定である。

○渡部委員：

市民の具体的意見が環境審議会に伝わる必要がある。

○宮加谷委員：

市民会議（環境保全推進会議）や市民意見交換会は、環境審議会と同時に開催するのか。

○事務局：

新たな環境基本計画策定の中心組織は環境審議会である。重点プロジェクトのテーマが決定した後に市民会議（環境保全推進会議）を開催する予定である。

二宮委員：

「着眼点2：計画の浸透」「着眼点3：動く計画」は当たり前のことであり、記述の必要はないのではないか。

○事務局：

事務局側と環境審議会と基本的な考えを共有するためにあえて記述している。

○渡部委員：

具体的に進めていくという市の決意として、着眼点2は重要と考える。

○清水委員：

着眼点2の「浸透を図る」という表現は、上から目線の表現に感じる。市民と一緒にレベルアップしていこうという表現がよいのではないか。市民の意見を汲むという部分も着眼点の中に盛り込む必要がある。

○副会長：

着眼点2と着眼点3は、当たり前のことであるが、難しい問題である。着眼点として改めて示すのはよいと思う。しかし表現の工夫が必要である。

○伊藤委員：

着眼点2について、時間のない人が、市の取組を知るのは現状の広報のやり方では難しい。分かりやすい表現、周知方法を考えてほしい。

○事務局：

「西東京市一般廃棄物処理基本計画」では、「ごみ一日4グラム減らそう」という表現を、よりわかりやすく「A4の紙1枚分」、「大さじ1杯分」など、身近な表現で示す工夫をした。表現の仕方は重要であると感じている。

○伊藤委員：

今の例えは非常にわかりやすくよいと思う。

齋藤委員：

現在の市の環境状況が分かる資料を示して欲しい。例えば環境白書、「西東京市の環境2012」など。

○事務局：

環境白書の冊子はないが、ホームページ上で公開している。

○会長：

ネット上に環境に関連する資料が公開されているようなので、URLの一覧表を作成して配布してほしい。

清水委員：

着眼点3について、行政が何をしてくれるか、ではなく、自分で何ができるか、という、市民の意識変化が必要である。市民が自発的に動くということが大事である。

(4) その他の市民参加手法について ((3) と順序入れ替え)

事務局より資料2-1「2.市民意見交換会」の説明。

○渡部委員：

市民意見交換会の開催回数は何回か。

○事務局：

1回と考えている。公募でどの程度の応募があるか不明であるため、1度に開催できない場合は、回数が増える可能性もある。

○宮加谷委員：

市民意見交換会はテーマを決めた方がよいのではないか。

○渡部委員：

旧田無市と旧保谷市で1回ずつ開催してはどうか。

○田辺委員：

意見交換会の参加は、集合住宅の管理組合や自治会に呼びかけてはどうか。

自治会や管理組合はごみの取組を中心に一生懸命行っている。集合住宅の住人は比較的環境問題に関心があると思う。

○事務局：

市報とホームページのほかに、市内の掲示板での周知を考えている。自治会と集合住宅の管理組合については、全てを把握しているわけではないため、参加の呼びかけは難しい。

環境保全課としては、資源物の集団回収をしている団体を把握しているため、声をかけることは可能である。

○渡部委員：

アンケート調査の中間報告後に開催してはどうか。アンケートの調査結果を踏まえ、テーマを絞って開催することができるのではないか。

○会長：

参加は特定の団体なのか、それとも、希望者なのか。

○事務局：

参加希望者である。市が合併して10年が経過しているため、旧田無市と旧保谷市に分けての開催は考えていない。

アンケート調査結果は、地域別に示すことが可能である。

○渡部委員：

環境という言葉があいまいなため、テーマをしぼらないと参加者が集まらないのではないか。

○清水委員：

講演形式、もしくは、何人かがパネルディスカッションを行い、その後意見をもらう形式にしてはどうか。

○事務局：

参加を希望する方は多いと考えている。応募時に発表概要を書いてもらい、テーマ順に発表していただくことを考えている。講演形式は難しい。

○副会長：

特定のテーマだけに集中する危険性があるため、募集の段階で、テーマを細かく決めないほうが良い。

(3) 市民意識調査の設問及び選択肢について

事務局より、資料2-1、資料2-2の説明。

○宮加谷委員：

前回調査の回収率は何パーセントであったか。

○事務局：

前回の調査は40パーセント前半の回収率であった。

○宮加谷委員：

回収率40パーセントというのは低いのではないか。

現時点のアンケート調査の設問は、回答しやすい内容と思うが、環境に対する意識の向上に寄与する設問になるとよいと思う。

○副会長：

行政が行うアンケート調査で、約40パーセントという回収率は一般的であると思う。

- 渡部委員：
地域ごとの分析が可能な設問となっているのか。
- 事務局：
地域ごとに分析可能である。
- 渡部委員：
自宅近くに道路が建設されつつあり、今回のアンケート実施時は建設中である。道路の建設前後でアンケート結果は比較できるか。
- 事務局：
アンケートは5年ごとに実施予定であるため、今回と次回のアンケート結果を比較することが可能である。
意識の変化等を比較ができるように、設問ごとに継続するかどうかの判断をしている。
選択肢を工夫することで、現状と5年後の比較が可能である。
- 井野委員：
災害や安全に関する項目は必要ではないか。
- 副会長：
環境とは関係が薄いのではないか。
- 清水委員：
アンケート調査結果の公表方法を教えてほしい。
- 事務局：
11月中旬の第4回環境審議会で報告する。また、市ホームページでも公表する。
- 田辺委員：
資料2-1の5ページ、「栽培される際にエネルギー消費が少ない旬のもの」とあるが表現が理解しづらい。
- 事務局：
理解しやすいように工夫する。
- 渡部委員：
資料2-1の6ページ、問5「環境保全活動」の意味が広すぎるのではないか。
- 事務局：
設問の下段に、環境保全活動の注釈を入れる予定である。
- 渡部委員：

注釈案に、「生きものを保全」とあるがこれはどういう取組を想定しているのか。

○事務局：

たとえば、小学校のプールで「ヤゴ救出大作戦」というイベントを行っている。

○渡部委員：

資料2-1の6ページ、「地域活動」の設問はどのような意図で尋ねているのか。

○事務局：

総合計画における市民意識調査の設問である。この結果も分析に利用する予定である。

○宮加谷委員：

本市で自転車のシェアリングを実施している場合、設問に追加してはどうか。

○事務局：

モデル事業として実施しているが、設問として追加するかは検討したい。

齋藤委員：

新問8であるが、複数回答にしてはどうか。

○副会長：

新問8の選択肢2は「駐輪場を増やすことで、安心して…」とあるが、駐輪場を増やすことと安心は繋がりにくい。「自転車専用道路の設置等を行い、安心して自転車を運転できる環境をつくる」としてはどうか。

○事務局：

検討する。

○渡部委員：

現在自転車は大事な交通手段の1つである。このアンケートでなくとも、どこかで自転車に関するアンケートが必要なのではないか。

○事務局：

このアンケート案は今後庁内調整を行う予定である。

○田辺委員：

自転車専用道路の整備は、市道であれば可能なのか。

○事務局：

都道の場合、都と警察との協議が必要となる。本市は狭い歩道が多く、自転車専用道路を作ることは難しい。

- 伊藤委員：
設問に家庭菜園を希望するか入れてはどうか。
- 渡部委員：
農家の意見は別に集約しているのか。農家の意見の吸い上げ方に工夫が必要なのではないか。
- 事務局：
農家の意見は、「西東京水都市と農業が共生するまちづくりモデルプラン」の策定過程で収集している。市民農園の開催には、課税の問題が関わる。農地を第三者に貸すと、農地ではなく貸地になってしまい課税額が変わるため、土地所有者に負担がかかる。
- 渡部委員：
石神井川以外にも暗渠になっている川がある。石神井川以外の川についての設問を作れないか。
- 事務局：
検討させていただく。
- 渡部委員：
郷土資料館等、地元の環境を展示する施設に関する設問を盛り込むことはできないか。
- 事務局：
検討させていただく。郷土資料室は西原総合教育施設内にある。
- 伊藤委員：
昔の西東京は雑木林が多くあったが、今は武蔵野の景観はほとんど残っていない。そのことについて、市民の考えを尋ねる設問を追加できないか。
- 事務局：
資料2-1の15ページ、総合計画の市民意識調査で同様の設問がある。
- 伊藤委員：
「農地・屋敷林」という選択肢では、武蔵野の景観は思い浮かばないように思う。
- 田辺委員：
「ございましたら」と「ありましたら」という表現が混在しているので統一してほしい。
- 事務局：
「ありましたら」で統一する。

○副会長：

性別の項目は必要ではないか。

○事務局：

近年、性別での分類は避けられつつあるが、総合計画の意識調査では尋ねている。そのため、今回のアンケート調査の設問に追加する。

井野委員：

アンケート調査は外国国籍の方にも届くのか。このアンケートが外国国籍の方にも届く可能性がある場合、国籍の設問を加えてはどうか。

○事務局：

無作為抽出であるため届くことになる。設問を読めない可能性があるため、対処方法も考える。

(5) その他

○会長：

次回の環境審議会は、10月23日（火曜日）13時30分からとする。

3 閉会

○会長：

本日の環境審議会は以上で終了する。

以上